

Fly Fishing Frontiers Vol. 5 1999.4  
ed. by YFFC (職場のフライ・フック  
多摩川の鯉釣り  
の名称です)

オイカワ目当てで多摩川に出かけると、伝統的な鯉釣り仕掛けである吸い込みバリに大きな練り餌の団子を付けて、いかにも太いぶっ込み竿でドボンと投げ、たまに大物鯉とのやり取りをしている釣り人を見かけます。多摩川では、彼らの存在がメジャーなのです。しかし、この頃のフライ・フィッシング人気を反映してか、休日ともなると、確実に鯉やオイカワねらいのフライ・マンに良く遭遇します。そう言う自分も、1996年3月31日の多摩川での記念すべき「フライで初鯉」を皮切りに、トラウトのシーズン・オフには足繁く7番ロッドを手に、多摩川の川崎側中之島界隈の流れを徘徊している一人なのです。初鯉以来足かけ3年、熱意が実って、多摩川鯉の実績は1999年2月20日現在で115尾を達成しています。そこで、この会報には、YFFC 会員からのリクエストもあったことから(ありましたよね)、多摩川での鯉釣り釣行記録のページをめくって、その釣行エピソードの幾つかと、115尾の実績で養われた多摩川鯉釣りのノウハウを紹介することにしました。

### 多摩川の鯉釣り釣行記録から:エピソードその1

1997年3月8日(土)晴れ、風強。これまでの鯉釣りにはオービス社の5番のロッドを使ってきた。引きを楽しむにはこの竿でいいのだが、平均サイズが50センチ級の多摩川の鯉を手元に寄せるにはいささか時間がかかりすぎて、これではすこし鯉がかわいそう。そこで、ここ数回の釣行では、湖専用にと大分前に買ったバット部分が大層しっかりした Review 6-7番のロッドに換えていた。幸いにして、本日はけっこうグット・サイズをヒットさせることができた。3度目の正直、やっとこの7番ロッドで鯉第1号を経験する事が出来た。この竿なら超大物とのやりとりも大丈夫と確信する。

さて、勉強熱心なYFFCの面々なら、たぶんご存じかもしれない。2年位前の Angling という釣り雑誌に「鯉フライは素材探しから、多摩川からの特別レポート」という記事を書いている藤田克昌さんという多摩川のカープ・マスター(私が敬意を表して命名した。)がおられます。実は、本日、この名人と出会いの日でもあったのです。そこで、以下にその時の様子を紹介しましょう。

風貌、身のこなし、ひとめで「うむ、この人は出来るな」が第一印象でした。とにかくまずは「やあ、今日はどうですか」と、お互い、挨拶を交わしました。たぶん、遠目から見ていて、こちらがこのポイントにけっこう粘っていたにもかかわらず、全然とれていないのご存じだったのだろう。「ちょっとこのポイントに流していいですか」と懇懇に語りかけてきた。その有無を言わせぬ雰囲気にならされて、あっさりと「どうぞ、どうぞ、やってみて下さい」とポイントを譲る。そこで、カープ・マスターはやおらパンを2-3片ぱらり。そして、「いますな」とこちらに合図を送り、フライ二流しであっさりとヒットです。素早くランディング、サイズのチェック、背鰭に目印のタグ付けて、そしてリリース。この流れるような手さばきに、見学者はただひたすら感心することしきりでした。そこで、見学者はおずおずと「どんなフライをお使いですか」と尋ねる。「こんなもんですよ、一つ差し上げますから試してみてください」ときた。さらに続けて、ボディ材、フック、フローターなどのフライ・マテリアルに関する詳細とその購入先まで親切に伝授してくれたのです。これが多摩川の鯉スペシャルバージョン・フライのYFFCメンバーへの伝承の記念すべき瞬間でした。その後、このスペシャル・フライは藤田さんが Angling に詳しく紹介していること、YFFCの面々もすでにご存じの通りです。さらに、昨年、藤田さんは多摩川で1メートルオーバーの草魚をこのフライでかけていることも Angling に紹介しています。こちらとしても通い詰めている多摩川で、いつの日にか1メートル・オーバーの大物にあやかれる日もあろうかと楽しみにしているところです。